



特定非営利活動法人

# 神奈川県環境学習リーダー会

## 会報 No. 63

2008年  
9月15日発行



### ◎ 巻頭言 ◎

## 生物多様性を守ろう

副代表理事 猪股満智子

2010年は国際生物多様性年。その節目の年は、10月に名古屋で日本が第10回生物多様性条約締約国会議(COP10)の議長国として務める重要な年になる。地球上の生物は約175万種。未知の種も含めると3千万種に上るといふ。生命は40億年かけ、互いに網の目のようにつながり複雑な生態系を築き上げてきた。米国の生物学者が「生物多様性」と表した造語だ。多様性を遺伝子の特徴でみると、ゲンジボタルの求愛の点滅が東西日本で2秒ほど違ったりアサリやテントウムシなど昆虫類に至る模様も千差万別。多様な遺伝子をもつことで、生物は環境の変化や病気に対抗している。また生物は医療や食糧の他、カイコから絹のように工業製品まで人類に様々な恵みをもたらしている。医薬品の半分くらいが植物や微生物の働き等、生物由来といわれる。食糧になっている植物も数万種になるとも考えられる。そうした将来に備え、多様な生物を自然界に蓄えておきたいというのが、多様性を守る出発点の一つになっているらしい。

**絶滅時代** 生物の宝庫の森林は毎年、日本の面積の20%に当たる730万haが消失。この20年でサンゴ礁の20%、マングローブ林の35%が消えた。国連は、人類のせいでこの数百年に絶滅の速度が1千倍に加速したと分析。1日に150種以上の生物が絶滅しているという学者もいる。多くの生物が知らぬ間に姿を消していることになる。

**外来種の脅威** 絶滅に追いやる原因は開発、乱獲、化学物質汚染など様々、外来種の影響も深刻である。国際自然保護連合(IUCN)によると、鳥類の30%、両生類1~20%が外来種のせいで絶滅の危機に直面しているという。外来種により失われた農業生産量や駆除の費用は、世界で30兆ドル/年に達するとの試算もある。

IUCNは外来種ワースト100を認定。この中には緑化用に輸出され、生態系をかく乱しているイタドリやコイなど日本産の7種も含まれている。

**温暖化の脅威** その影響は既に現れている。桜の開花日や食物連鎖の頂点・猛禽類の越冬、エイやクラゲの増殖が漁業に深刻な被害をもたらしている。大山のモミ、丹沢のブナ林も酸性雨ではなく害虫の異常繁殖と水分ストレスによる複合汚染であった。

**いきものみつけ** 環境省は7月、全国規模で昆虫や草花、鳥類など多様な生物調査を始めた。といっても、やさしく子どもも参加できそうな内容で国民から集約、分析・把握する考えだ。丹沢大山総合調査も市民参画の自然再生委員会が動き出し、多様な市民の協力が待たれる。

**気候変動を見守ろう** 県環境学習リーダー5期生まで輩出した'98年3月~01年3月、手を挙げた有志と県、初代・2代目の環境学習担当とで環境モニタリングプロジェクトを立ち上げた。その過程でできたのが指標生物調査と大気測定モニタリング部会(現大気環境と水環境部会の前身)。環境問題は多岐に亘るためか組織全体としてはなかなか浸透できず、部会員中心のモニタリング結果になっているところが残念である。折角の県下に点在するリーダー会員、県内隈なくとまではいかなくともデータとしての価値は増すはずだ。他愛無いとお思いの方もいるだろうが、やさしく高度に迫らないところは後発の環境省と同じ。いかにより大勢に参加していただくにかかっている。多様なデータ提供が望まれる。

本年から地域性を生かした夏休み子ども環境体験教室が始まったが、小田原ではセミの脱け殻調査が温暖化と合わせ組み込まれた。子ども時代の原体験は貴重で、息長い開催が望まれる。

# 特集

# こども達におくる夏の思い出

## 神奈川県協働事業 『子ども環境体験教室』

### 実施報告

本事業担当理事 安藤 紘史

先回の会報で報告した「子ども環境体験教室」が8月末に予定通り終了したので概要を報告します。この事業は、県との協働事業で、県内3地区で6教室を開催し、地域への啓発を図ると共に、地域での活動定着化をも目指すものであります。本事業は、企画、折衝、募集・・主催者として、多大な労力と地域力を要するものでありましたが、地区責任者の方々を中心に精力的に進めていただき、大きな成果をあげる事ができました。

応募者が定員をはるかに超過する教室もあり、定員を増やしたり、追加講座を開催しましたが、抽選で一部の子どもにはお断りしました。その結果、子どもの総数は210名を越え、保護者や弟妹を加え参加総数は320名近くとなりました。

そのアンケートの集計によると、参加動機は工作など環境以外であった子どもが多いが、十分に楽しみ、環境に関心を持って帰ってもらった様子がわかります。さらに多くの保護者にも参加いただき、家庭に帰ってからの相乗効果も大いに期待されます。

反省点はあるものの、大きな成果をあげる事ができ今後への足掛りができたと実感しております。この間、教室開催にご支援いただいたリーダー协会会员は延べ50名以上にのぼりました。更に環境科学センター殿のご指導とご支援、地域の諸団体の方々のご協力があったから実現する事ができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

平成20年度 『子ども環境体験教室』

概要

地区(責任者)	教室名	会場・住所	開催日時	参加人員
横浜・川崎地区 -1 (児玉 勇)	「温暖化」って何だろう・・・ ソーラーオルゴールを作って考えよう	エコライフかながわ	7月22日(火)	54名
		横浜市神奈川区	8月11日(月)	22名
横浜・川崎地区 -2 (吉田栄一)	「温暖化」って何だろう・・・ ソーラーオルゴールを作って考えよう	野庭地区センター	8月7日(木)	44名
		横浜市港南区		25名
県北地区 (荒谷輝正)	古紙紙管を利用して 写真立てを 作ろう	環境情報センター 相模原市	7月27日(日)	14名 3名
	ケナフ(草の名前)を使って 自分だけのハガキを作ろう	青少年学習センター 相模原市	8月28日(木)	30名 17名
西湘地区 (香川興勝)	ソーラーオルゴールを作ろう	県政総合センター 小田原市	8月 5日(火)	42名 24名
	ゼミのぬけがらを調べよう	郷土文化館 小田原市	8月23日(土)	24名 15名

備考： 開催日の下段は追加教室

参加人員：上段/受講者 下段/保護者弟妹(外数)



「班に分かれて省エネ実験」



「ソーラーオルゴール作り」

## 横浜・川崎地区からの報告

児玉 勇 (横浜市)

川崎地区では、私が神奈川区で、吉田代表が港南区で、開催責任者として取り組みました。テーマは共に「地球温暖化って何だろう。ソーラーオルゴールを作って考えよう」としました。全教室の中で開催日が一番早かった事もあり、大掛かりなチラシ作成や学校への依頼等慣れない経験でしたが、色々勉強させられた講座になりました。

1) チラシ作成段階で若いお母さんから「環境講座」より、「ソーラーオルゴールを作ろう」を大きくしようとの助言を得ました。



「違い探しゲームから自分でできる省エネを探す」

2) 案内は横浜市・川崎市の全小学校へ出し、周辺学校(6校)は4年生以上全員にチラシが渡るように持参しましたが、学校の取り組みも、具体化しつつある事を実感しました。また、参加された何人もの保護者から学校行事への協力を求められました。

「工作」志望の参加者が大変多く、その子供達が「温暖化」を楽しく理解した様子が、アンケートにも明確に出ました。今後もこれからこの手法を活かすべきと思います。

3) 出前授業に較べても、応募してきた子供達は(工作志願者でも)まとまりも、理解力も優れており、講師としても楽しい雰囲気を作る事ができました。

これからの課題としては、我々が担当した地域での講座をどう展開して行くかです。そのためには経費面も加味して地域の行政・学校・町内会へのアプローチが必要になってくるためリーダー会としての具体的な方策が必要です。

最後に追加講座も含めて3回の講座にご協力いただいた各位にお礼申し上げます。特に会員の岩澤さんの開発された「ソーラーオルゴール」はまさにぴったりで、講座を盛り上げてくれたことに感謝の意を表します。



## 西湘地区からの報告

香川 興勝 (小田原市)

当地区では2会場で二つのテーマで開催することが出来た。1回目は新エネルギー・省エネルギーを目的にして「ソーラーオルゴールを作ろう！」そして考えよう「地球温暖化って何だろう！」というテーマで行った。2回目は自然環境保護を目的とした「セミのぬけがらを調べよう！」セミのぬけがらを調べると、「地球の環境が見えてくる」というテーマで行った。1回目は定員30名に対して72名の応募があり、会場等を工夫して42名を受け入れ、保護者の見学参加22名を合わせて64名で行った。光を当てると鳴り出すオルゴールを組み立てて感動したり、エコ家庭・無駄家庭の2枚の絵の差から省エネ実施項目を探し出す。この効果は知的ゲームや省エネ実験に目を輝かせて取り組み、自分の省エネ計画も立てることができた。



写真「班に分かれてセミの抜け殻探し」



2回目の[セミのぬけがらを調べよう]では参加者24名、保護者11名で実施した。小田原城址公園で約1時間に350個のぬけ殻を集め、どんなセミかを識別実習し、分布図を作成して植生との関係をみたり、過去のデータと比較した。その結果、乾燥地を好むクマゼミの数が増えていることがわかった。多くの生物は、クマゼミが好むような乾燥地は苦手。他の生物にとって住みにくい環境が増えたという

証拠。また、温暖化との関係も有り得る。生物の調査から地球の環境が見えることを実感した。子どもたちや保護者から、「新エネ・省エネや自然保護の大切さが実感できた」「自分達に出来ることから取り組んでいく」という多くの声が寄せられた。この機会を与えてくれた神奈川県環境科学センターに感謝します。

## 県北地区からの報告

荒谷 輝正（相模原市）

テーマは「古紙紙管を利用した写真立てを作ろう」及び「ケネフを使った自分だけのハガキをつくろう」としました。昨年迄、神奈川県環境科学センターで実施した内容に準拠し、見直したものです。県との共同事業であり、かつ新しい場所での開催なので、実績のあるものとしました。受講者募集に当たっては、県からの受託事業であることを説明して、相模原市立環境情報センター、及び近隣の小学校長の協力を得る確約を頂きました、また、神奈川県環境科学センターの角田様にも何度も足を運んでいただき、教育委員会にもご挨拶していただく等のご支援して戴きました。その事前準備をした後に、開催場所の近隣小学校を対象にチラシを配布いたしました。殆ど応募者が無く、まさしく大海に石を投げる感でした。相模原在住のリーダー会員の協力もお願いし、また「子どもエコクラブ」登録者全員にも、郵送するなどいたしました。反応が乏しく、小林義博さんと、相模原環境情報センターの講座開始の時を利用して内容を説明して勧誘をし、興味を持ってくれた子どもを誘いました。(当然ですが、子どもだけで申し込んだ場合は、必ず保護者に連絡して了解を得ました。)

この方法は、大変良かったようで、8月28日開催

「ケネフから自分だけのハガキづくり」



講座には定員を超えることが出来、保護者も多数来ていただけて大変盛大な講座になりました。今回の開催に人員募集の方に時間がかかりすぎ、講座内容の検討に十分な時間をかけられなかったと思いますが、家でも、家族団らんの話題にしてもらうように資料作りに配慮したつもりです。今後、これらの体験が来年に生かされるように検討していきたいと思っています。



### ? 地球環境条約ロゴ

正しい組合せは? 日本未加盟条約はどれでしょう?

A



B



C



D



1. ラムサール条約    2. 生物多様性条約    3. ボン条約    4. ワシントン条約

答えは 5 ページ

# 特集

# こども達におくる夏の思い出

「自然とのふれあい・気づき」 ～自然は五感で感じるもの～



自然案内人 北村 允彦 (小田原市)

人は自然の中にいると感動と安らぎを得ることができます。あなたは最近どのような感動や安らぎを体験しましたか？

この夏、子どもたちと緑濃い辻村植物公園で、夕暮れ遊びを楽しんだ昼から夜に空の色が変わり行く時、緑の中に朱色の塊、ネムの花が咲き出した瞬間を見つけた子どもたち、自然の神秘さと美しさに心を奪われた。

遠くに行かなくてもあなたの周りで自然はメッセージを送り続けています。受け取るあなたの心を穏やかにしてチャンネルをそれにあわせてみましょう。

自然案内人として大切にしていること。それは自然からのメッセージを素直に受け入れる心の穏やかさを保っていたい。大人になると五感を使わずに視覚に頼ってしまうが、自然からのメッセージを素直に受け取り感動する子どもたち。その感性を共に喜べる自分でいたい。

アメリカのレイチェル・カーソンは著作「センス・オブ・ワンダー」の中で「もしもわたしが、すべて

の子どもたちの成長を見守る善良な妖精に話しかける力を持っているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を授けてほしいと頼むでしょう。

この感性は、やがて大人になるとやってくる倦怠と幻滅、わたしたちが自然という力の源泉から遠ざかること、つまらない人工的なものに夢中になることなどに対する、かわらぬ解毒剤になるものです。

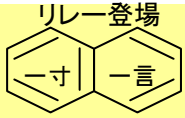
妖精の力に頼らないで、生まれつきそなわっている子どもの「センス・オブ・ワンダー」をいつも新鮮にたもちつづけるためには、わたしたちが住んでいる世界のよこび、感動、神秘などを子どもといっしょに再発見し、感動をわかちあってくれる大人が、すくなくともひとり、そばにいる必要があります。」

あなたにも出来ます。子どもの発見や感動を共に味わうこと、そのことが自然を大切に思う気持ちを育てていくことにつながります。



## 4ページ 地球環境条約ロゴ 答え

- A 生物多様性条約 2  
巻頭言参照
- B ワシントン条約 4  
絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約
- C ラムサール条約 1  
特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約
- D ボン条約 3  
移動性野生動植物の保全に関する条約  
日本未加盟なぜ？



## 水源環境保全・再生かながわ県民会議委員として

柳川 三郎 (平塚市)

皆さんへ 昨秋の直撃台風一過のあと相模湖・津久井湖がどのようになっていたかご存知ですか、湖は一面流木ばかりでしたよ、水源地域の山で間伐した木々はいかされることなく山に大半が放置されているからです。流木の今まで以上の膨大なる量を見て愕然といたしました。私たちは木材を燃料としていた時代と化石燃料を中心とした今の生活の変化をただ便利で豊かな生活と手放しで喜んでいますがそれでよいのでしょうか。

昨年の4月から水源環境保全・再生かながわ県民会議委員として県下の水源涵養林を見てこれで次代の人たちにとって欠かせない「水」は大丈夫か懸念を抱いております。長期間手入れがなく荒廃の進んでいる森林は約60%なんです、県では水源環境保全・再生施策の在り方について平成12年から検討を加え水源環境保全・再生実行5ヶ年計画が始まっています、昨年からは個人県民税の超過課税、一人当たりの平均負担額は約950円、税収規模は約38億円です。

県民会議機能は、

1. 施策の立案・見直しに対する県民の参加と意思反映として、水源環境保全・再生に関する事業や今後の方策等について議論して、施策の

見直しや立案に県民の意見を反映することや、施策の効果を評価するための指標など特定の課題について、行政、市民、学識者が協働して検討を図っています。

2. 県民参加事業の推進として、県民参加のもとで水環境のモニタリングや県民に対する普及・啓発活動などの取り組みを推進して、県民主体の取組や県民・NPOと行政との協働による取組を推進するため、水源環境保全・再生に関する市民事業等支援制度を創設して、今年度は20団体が既に活動を展開いたしております、20団体の中には、わがKリーダー会員も加わっています。
3. 県民会議の中に学識者や環境保全に直接関わるNPOや行政の関係者等で構成する専門委員会を設置して効果の検証を行います、その結果を県民会議で議論し施策の評価を取りまとめ、以後の事業の見直しに反映します。私は水モニタリングチームのリーダーとして、5月に酒匂川の飯泉取水口付近の工事をモニターいたしました。関係者が精一杯の力を出しきっていることを把握した次第です。



### 運営委員会報告

事務局 土屋俊幸

#### ◆会員数(8月14日現在)

正会員128名、賛助会員25名、特別会員5名。  
計158名。

#### ◆7月運営委員会(7月10日)

審議項目

- ・前回議事録確認・会員数確認
- ・会報62号発行準備
- ・会報63号企画・広報部  
次号発行の日程調整や広報事業(会報、メーリングリスト、ホームページ)について
- ・コミカレ企画

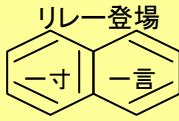
#### ◆8月運営委員会(8月14日)

審議項目

- ・前回議事録確認・会員数確認
- ・会報63号企画、広報部の業務  
原稿執筆や発行作業に関して、より多くの会員に声をかけることが意見として出された。
- ・新規事業
- ・コミカレ募集状況
- ・夏休み子ども環境体験教室 実施途中経過
- ・NPO化一周年記念行事  
外部へのアピール及び諸先輩方への感謝を開催目的として、講演会を検討する。
- ・環境活動人材育成講座  
リーダー会として1件受託した。

※NPO法人化にともない、理事・運営委員によって毎月開催されている会合の名称を「役員会」から「運営委員会」に変更いたしました。





## 2℃以内 — 地球最後の防衛ライン

～ハチドリの一滴を～

下條 泰生 (鎌倉市)

中学時代、濫觴 (らんしょう) という言葉を習いました。大河も最初は觴 (盃) を浮かべる位の小さな流から始まるということです。北村、萩原、高橋各氏と私の四人で省エネ部会を立ち上げの実験を通じ待機電力カット、白熱灯と蛍光灯の比較、エコカルタによるマイバック使用等、出前授業で推進して十年以上、いまや内外で電球型蛍光灯の使用は進み、マイバックは、記念品にも採用されるほどクールにしてナウくトレンドィになり、3Rは当たり前。先日のサミットでも長期目標として”50By50”(2050年までに50%削減)が主要排出国(MEC)で合意される時代になりました。

◇再生不能、循環不能な地球に

中学時代、物理で「質量不変の法則」を教わりました。人口も増える一方、化石燃料を始め、動植物等資源を蕩盡することは、種の多様性を減らしCO<sub>2</sub>を増すことです。CO<sub>2</sub>年間70億トンの半分を吸収する海・山の機能も減衰し、半分以上が温室効果ガスに転換しています。人口と活動が増えることは、資源が減りCO<sub>2</sub>が増えるという、質量不変の法則が貫かれ、再生不能の高エントロピー地球になってきています。「千の風になって」で謡われている人間と風、雪、鳥、その他の間の元素のやり取りは失われ、いのちの循環が途切れようとしています。IPCC第三次、四次報告書でも、破滅的シナリオをさけるため、2℃以内を地球最後の防衛ラインとして温暖化緩和策、適応策を打ち出しています。

◇グリーン購入にみる適応策と緩和策

適応策に通底するのは、不確実性事象に対する予防措置であります。予測不能・外れ、想定外のゲリラ豪雨、鳥インフルエンザ、種における立地変化、海面上昇による海岸浸食等は、適応型のインフラ工事、農漁業における時期や品

種の改良、医療薬品の開発がリスク管理要因となってきます。例えば県と湘南各都市との養浜工事や漁港整備はそうです。省エネやエコドライブ、再生可能エネルギーの緩和策の他に、グリーン部会活動として「バーチャルウォーター」を含めた「フードマイレージ」(FM商品)、「フェアトレード」(FT商品)の原産地や包装、エコマークによる選別購入を買物ゲーム、紙芝居を通じ普及しています。

◇カーボンオフセットによるPSR

最近では原料調達・生産(P)ー流通(D)ー消費(C)ー廃棄・蓄積(A)のライフサイクルアセスメント(モノのいのちの循環評価)の各段階で排出されるCO<sub>2</sub>の足跡(エコロジカルフットプリント=FP商品)の商品表示も注目されます。缶ビール1個161g、レジ袋24g、トレー平均40g、ペットボトル平均60g等の購入によるCO<sub>2</sub>間接排出は、光熱水費、ガソリン、ゴミ等や、旅行・各種イベント参加によって排出される直接排出と同じく、各家庭各個人の社会的責任(PSR)として、何等かの方法で相殺(カーボンオフセット)されねばなりません。国や企業レベルでの排出権取引や、先日の横浜でのアフリカ諸国会議出席首脳の前飛行機排出のCO<sub>2</sub>相殺の「かながわの森」の家庭バージョンです。例えばオフセットつきの年賀状や「グリーン電力証書」「太陽熱証書」の購入、再生可能エネルギーや、植林支援NPOへの寄付もそうです。身近なところでは屋上緑化や、緑のカーテンもオフセット吸収源です。

◇人類最後の聖戦

吾々の戦いは「ハチドリの一滴」にしか過ぎないかも知れません。されどハチドリの一滴です。その一滴が、社会を変える大きな流れになることを心から希求するものです。以上

(次は萩原秀人さんをお願いします)



## 平成20年度 かながわコミュニティカレッジ

### 募集中 「環境ボランティア養成講座」のご案内 代表理事 吉田 榮一

神奈川県が推進している「かながわコミュニティカレッジ」は松沢知事がアメリカにおける大学のコミュニティカレッジの体験から日本型にモデルチェンジして「地域で活動する県民のための“新たな学びの場”の創設をめざして」平成18年10月より試行を開始した事業です。この事業の講座の一つの「環境ボランティア養成講座」を平成19年度に引き続き、弊特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会が受託しました。

「環境ボランティアの活動」には、地球・自然環境、そして生活環境と、幅広い分野が含まれます。また、それぞれの分野で毎日の様に新しい状況が生まれています。そして、環境ボランティアとして活動するには、環境問題に関する知識はもちろんのこと、行動に必要な経験、行動力、人脈、そしてボランティアを支える楽しさや明るさも求められます。

この講座では、前回の経験を活かして内容などについて深く議論し、受講者の皆様のアンケート結果を踏まえて、実施日やカリキュラムの内容等を検討しました。その結果、開催日時を土曜日午後として、環境に興味を持っておられる広い方々に受講しやすいようにし、講師・内容の見直しもしています。

また、広く、新しい環境の情報や、神奈川県下でのボランティア活動の実例を基にした講義と、色々な知識と実践行動の実際が学べます。



イラスト提供者・米山有美さんから季節のメッセージをいただきました。

実験・実習、ワークショップにより、さらに活動を進める上で助けになる、人脈や活動する地域を見つけ出せる講座を目指しています。講師陣の熱意と明るさで、受講者と一緒に楽しみながら、講座を進めてゆきます。

多くの方の受講をお願い申し上げます。

#### ○ 講座実施期間

平成20年10月11日（土）～12月20日（土）  
全10回（19コマ）

※上記とは別に、「アジェンダの日2008」

11月及び「温暖化防止の集い」12月への参加をご案内します。（自由参加）

#### ○ 定員 35名

#### ○ 受講場所 コミュニティカレッジ講義室

（かながわ県民センター11階協働・交流スペース1ほか）

※一部の日程において、体験実習等により講義会場が変わります。

#### ○ 受講料 13,300円

○ 申し込み方法 住所、氏名、電話と講座名「環境ボランティア養成講座」を記入して、神奈川県民部NPO協働推進課へ  
FAX（045-210-8831）または

下記インターネット

（このURLには講座の詳細内容も記載されています。）

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0223/komikare/kankyouborakouza>.

お送りするイラストのテーマには、できるだけ季節の草花や行事を入れるようにしています。本物を見ながら描くのが一番楽なのですが、匂を先取りするとなると、必要なときになかなか本物を見つけられないのが、ちょっとした悩みの種。一方で、これからやってくる季節を探すのは楽しい作業でもあります。今回は、田んぼの稲にとまったシオカラトンボと、咲き始めのコスモスにモデルになってもらいました。



○ カリキュラム

回	日時(曜日)時間	テーマ学習内容・学習方法	講師予定	会場
1	10月11日(土) 13:30~14:50	オリエンテーション 1. 講座の概要 2. 全員が目的・課題を発表し、講座後の期待する成果を共有	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会 前代表 安丸元一	コミュニ ティカレッジ 講義室
2	15:00~16:30 16:30~17:00	環境概論 1. 環境全般、神奈川の環境 2. 環境とボランティア活動全員の話し合い ・期待する成果	神奈川県環境科学センター 環境情報部長 杉山孝司 安丸元一	
3	10月18日(土) 13:30~17:00	地球温暖化と省エネルギー 1. 地球温暖化とその影響 2. 生活と省エネ体験報告 3. 気付きの啓発活動(実験やゲームを含む) 4. 実践して楽しいボランティア	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会 エネルギー部長 安藤 紘史	1501 講義室
4				
5	10月25日(土) 13:30~15:30	水生生物の調査実体験「川に入ろう」 神奈川県下の川で水生生物の調査と水質検査を実体験	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会水環境部会長 齋藤昭一 部会員・近藤作司	県内河川 及び施設
6	16:00~17:00	水辺の環境と生態系 水生生物の実態調査を通じて水環境の現状と課題を学ぶ	元神奈川県環境科学センター 専門研究員・石綿 進一	
自由 参加	11月1日(土) ~2日(日)	アジェンダの日 2008 (環境関係の展示等)		横浜市中区
7	11月8日(土) 13:30~17:00	星空と明かりと地球環境 1. 神奈川県の星空 2. 人工照明、家庭・オフィスの省エネルギー 3. 明かりの調査・測定(実技・グループ活動)	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会運営委員 内田 重美	コミュニ ティカレッジ 講義室
8				
9	11月15日(土) 13:30~16:30	買い物で社会を変えよう! ~グリーン購入の考え方を理解すると共に、地域に広げるにはどうしたらよいかを共に考える。	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会グリーン部会長 代行 斎藤美代子	1501 講義室
10				
11	11月22日(土) 13:30~15:50 16:00~17:00	丹沢・大山の自然環境と保全・再生に向けて 1. 丹沢・大山自然再生の取り組みについて 2. 事業計画と県民のかかわり 企画からの参画:調査から実践へ	神奈川県自然環境保全センター 自然再生企画課 副技幹 羽太博樹 みろく山の会 理事・有川百合子	1501 講義室
12		里山の保全活動 ホテル生息地の保全活動および ホテル生息地の再生活動を通して 里山保全の難しさを語る	座間のホテルを守る会 事務局長 脇田信雄	
13	11月29日(土) 13:30~16:00	ごみ処理と循環型社会ごみ処理 ごみ処理方法を中心に環境問題を考える (3R,市民活動など)	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会廃棄物 GO3部会長 内藤克利	コミュニ ティカレッジ 講義室
14	12月6日(土) 13:30~16:00	持続可能なまちづくり 夢をかたちに	都留文科大学 文学部 教授 渡辺豊博	
15	16:10~17:00	・大気環境の基礎1 ・酸性雨・大気測定の体験学習 最近の大気環境と影響 (NO <sub>2</sub> 捕集管を持ち帰りサンプリング、翌週持参する)	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会大気環境部長 猪股満智子	コミュニ ティカレッジ 講義室
自由 参加	12月13日(土) (予定)	温暖化防止の集い		横浜市中区
16	12月13日(土) 13:30~17:00	・大気環境の基礎2 ・大気(NO <sub>2</sub> )測定・分析評価の実習 測定データや経験を街作りに生かす 1. 地球規模の大気環境と地域の大気環境 2. 体験学習街作りに生かす 3. 測定データや経験を環境政策 や交通政策に生かす実践事例	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会大気環境部長 猪股満智子	コミュニ ティカレッジ 講義室
17				
18	12月20日(土) 13:30~15:00	ワークショップ 講座の成果と今後の活動:課題・ 企画案についてグループ討議	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会 前代表 安丸元一	コミュニ ティカレッジ 講義室
19	15:10~17:00	各自の今後の活動と課題 1. 受講者全員が活動内容と進め方 ・課題について発表 2. まとめ 2. まとめ	NPO 法人神奈川県環境学習 リーダー会 各講師及び代表	

※カリキュラムについては、講師の都合等により内容を変更する場合があります。







☆☆

## 自然環境部会

部会長 土屋 俊幸

### 活動報告

9～10月活動予定

7月6日に横浜市青葉区寺家で、里山の自然観察会を実施しました。

自然観察会を9月10日に実施する予定です。場所は茅ヶ崎海岸およびなぎさギャラリー（茅ヶ崎市汐見台）です。海岸侵食の現状と対策についての講話と観察になります。

また、11月のアジェンダの展示に向けて部会合を開催する予定です。



「寺家地区の里山」



横浜市青葉区寺家「自然観察会参加者」

☆☆

発行者：特定非営利活動法人  
神奈川県環境学習リーダー会  
代表理事 吉田 榮一  
企画編集責任担当：岩下 次郎  
イラスト：米山有美



ホームページ

[http://members.at.infoseek.co.jp/k\\_leader/](http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/)

◆ご意見、お問合わせ

E-mail : [npo.k.leader@gmail.com](mailto:npo.k.leader@gmail.com)

※本紙は会員の年会費と有志による寄付により運営されています。

◆寄付、会費等納入口座は下記をご利用ください。

振替口座：ゆうちょ銀行 00230-4-30769

加入者名：神奈川県環境学習リーダー会

▼ 不許複写 本紙掲載記事の全て無断転載をお断りします。

(c) 神奈川県環境学習リーダー会 2008 Printed in Japan

### 編集後記

これまでの構成を変え、お届けしています。

ご意見、感想お寄せください。

いわした じろう

[j-iwashita@joy.hi-ho.ne.jp](mailto:j-iwashita@joy.hi-ho.ne.jp)

